

2013年8月30日

事務局 通 訊

2013年8月特別号

日本華僑華人聯合総会は6月15・16日の両日、第15届代表委員大会を横浜山手中華学校で開催した。北海道から沖縄まで日本各地から20僑会、2僑校、1委員会、1オブザーバーの計50余名の代表が出席し、来賓として中国大使館から劉亜明参事官兼総領事と傅剛領事・王樹凡領事、駐福岡総領事館から紀竝領事、新潟領事館から紅燁領事が招かれて会議に出席したほか、陳慶民全日本華僑華人中国平和統一促進会会長も来賓として出席した。

また、任期満了に伴い役員の変更が行われ、横浜華僑総会名誉会長の任政光氏が新会長に推挙され、大会は任氏の会長選任を全会一致で承認した。なお副会長は五大地区会長の廖雅彦、謝成發、楊正武、曾昇龍、鮑悦初の五氏。

監査役には7月23日開催の第1回常務委員会で推挙された、楊忠銀氏（鹿児島）、蔡義雄氏（三重）に就任をお願いし、承認された。

【1日目】

【会長あいさつ】日本華僑華人聯合総会 符易亨会長

会長職を務めて4年になります。常務委員をはじめ皆さまのご協力により、会をこなしてきましたが、各地僑団役員が高齢のためか、代表委員大会の出席者数が聯合総会成立以来、毎回減少してきているのが非常にさみしく感じています。それをふまえ、今大会では各地の代表の皆さん、地元ならではの貴重なご意見ご報告を受け、常務委員会でいかに各地総会ひいては聯合総会の活性化に反映していきたいと考え、皆さまの活発かつ積極的な発言を期待し、今大会が実りのある大会になりますよう切望します。

現在常務委員会では組織形態の見直しを進めております。私ごとではありますが、昨年来体調を崩していることもあり、今期で会長職を辞任することと致しました。次期会長もまもなく常務委員の中から選出する予定でいます。この場を借りて任期中である皆さま多大なご支援ご協力に感謝いたします。ありがとうございます。

【基調報告】中華人民共和国駐日本国大使館 劉亜明参事官兼総領事

尊敬する符易亨会長：

僑胞の皆さんこんにちは。

本日は日本華僑華人聯合総会年1回の会員代表大会にお招きいただき、大変光栄に思います。中国大使館を代表して、各地から大会参加のため、横浜山手中華学校にかけつけてくださった華僑代表の皆さまに、高い敬意と心からの感謝を申しあげたいと思います。

聯合総会からのご依頼で、中日関係周辺に重点を置き、「中国の夢」に含まれる意味、そして在日華僑華人の自己建設と発展、この3つについて少し長くなりますがお話しさせていただきます。

一、中日関係の現状及びわれわれの態度と立場について

昨年は中日国交正常化40周年の年でした。本来は両国が今までの関係を発展させ、さらに新しい道を開く重要な年となるように、中日両国は“国民交流友好年”の開催を決め、600もの記念イベントが計画されていました。結果的には両国関係にマイナスになる出来事が次々と起こった1年でした。非常

に残念に思います。昨年9月には、日本の前内閣が中国の強い反対にもかかわらず、釣魚島の国有化を強行しました。そして両国の各方面の交流、合作のほとんどが全面的な停滞を招き、中日関係は国交正常化以来もっとも厳しい局面に陥りました。1972年の国交正常化、そして1978年中日平和友好条約の交渉中、双方は“釣魚島問題はひとまず横へ置き、解決はしばらく棚上げにする。”との了解と共通認識に至りました。まさに双方がこの問題を了解と認識を堅持したからこそ、中日関係は40年にわたり、安定的に発展しました。日本国内には中国に向かって、“実力で釣魚島問題の現状を変えようとしている”という人がいます。このひと言は全く根拠の無いことで、事実ではありません。日本は“島の購入”を実行することで、先ほどお話しした了解と共通認識を徹底的に破壊しました。その上、双方の立場、主張の違いの承認を拒否したために中国側は当然国家領土主権保全の措置をとらなければならなかったのです。

私たちが常に言うように中日両国は一衣帯水の重要な隣国で、中日関係は双方にとって最も重要な二国間関係の1つです。中国の新中央指導者団の中日関係の発展を重視することに変化はありません。習近平総書記が今年初め、中国を訪問した公明党党首の山口那津男氏との会見で、中日の4つの政治文書は、両国関係が困難を克服し、乗り越えて、絶え間なく発展する“バラスト”であると強く指摘しました。中国は4つの政治文書の基礎の上に、中日戦略互惠関係を前に推し進める意味を持っています。

両国関係は当前のところ、不正常的な状態で双方の利益に合致していません。また日本で生活・仕事をしている華僑華人に困難をもたらしています。「虎の首に鈴を付けた人こそ、その鈴をはずすことのできる人だ」という俗語があります。私たちは日本側が歴史と現実を正しく見つめ、十分な誠意を持って、現実的な行動をとり、中国と同じ方向に歩みを進め、対話と協議を通じて釣魚島問題の適切な管理コントロールの方向を見つけ、中日関係が改めて順調な発展の軌道に戻ることを希望しています。

中国は平和をととても大切にしています。皆さんもよくご存じの「和をもって尊ぶとなす」。和はすなわち双方の利、争いはすなわち損、“調和”などの中国語の熟語からも中国の伝統思想を伺うことができます。同時に近代以来、中国人民は侵略を受け、戦乱に苦しみました。平和の尊さを深く知っています。中国の古語に「己の欲せざるところは人にも施すなかれ」という言葉があります。中国人民は骨身にしみこんだ、戦争と動乱のもたらす困難の記憶があります。そして平和を絶え間なく追い求めています。中国は平和的な方法で国際紛争、安全保障上の問題の解決を主張し、武力に頼ることに反対しています。現実を見れば私たちには、社会主義の初期段階の基本国情は変わっていないことがはっきりと認識できます。そして日増しに大きくなる国民の物質的文化生活に対する要求と、発展の遅れた社会生産の間の矛盾は（社会の主な矛盾ですが）大きな変化はありません。私たちが世界最大の発展途上国であるという国際的な地位も変化がありません。中国が“200年の目標”を実現するには、長期的な平和で安定的な国際環境が必要です。平和的な国際環境の中で発展を追い求め、同時に中国自身の発展維持で世界平和を促進します。

中国は責任を負う大国で、相応の国際義務を果たしたいと思っています。国際社会のために更に多くのプラスのエネルギーを提供したいと思います。私たちは国際関係の中で、平等互信お互いを思いやり、合作で双方が成功する精神、そして国際的公平と正義を主張しています。全ての国は国連憲章の趣旨と原則を遵守し、世界文化の多様性、発展の道筋の多様化を尊重して、国際関係の民主化を推し進め、人類文明進歩を促進させるべきです。中国は始終隣人との良好な関係を堅持し、“隣人はパートナー”の周辺外交方針を持っています。積極的に周辺国家との政治互惠信の増進、実務協力の促進に力を入れ、人と文化の交流を強化しています。中国は国際的地域的に注目される問題に対して、引き続き建設的な働きかけをし、対話を推し進め、対話と協議を通じて、問題解決に向けて絶え間ない努力を続けます。

私たちは平和発展の道筋を堅持し、同時に国家主権と領土の安全を堅持することです。この2つの原則は矛盾しません。これは地域の安定と世界平和秩序の原則に合致するだけでなく、どの主権国も持つ基本権力だと思います。

二、中国の経済発展の成果と「中国の夢」の内包。

30年に及ぶ改革開放で中国は高い経済成長を続け、中国は大変革を起こしました。私たちは高度に集中した計画経済から、活力に満ちた社会主義市場経済の実現を成功裏に成し遂げました。衣食問題から全面的な小康社会へは、歴史的な乗り越えを経て実現しました。過去5年間で中国のGDPは26.6万億元から51.9万億元へ増加し、経済規模は世界第2に躍り出ました。中国は光り輝く発展の成果を獲得し、これは世界市場でも稀有な出来事です。

昨年より中国経済成長目標は自ら7.5%に抑え、昨年の実質成長率は7.8%、今年の第1期は7.7%でした。中国は経済成長目標に調整を加え、経済成長の方式を変えるために、それぞれの地域の平均した発展を推し進め、よりよい国内市場の形成、よりよい国民の生活のために、経済成長の質量と効率を向上させました。当面の中国経済の情勢は総体的にも良好で、中国の未来の発展は今までに優勢で大きな潜在力を持っています。昨年、中国東部沿海地域の経済成長率はゆるやかになりましたが、西部地域の成長率はどの地域も11%を超えています。その中でも貴州省は19.3%で、全国の先頭を走っています。これは中国東西部の発展の差が縮まっていることを表し、地域発展の協調性が強化されたことが明らかです。中国は今までに新型都市化と農業の現代化を進めています。これはさらに大きな就業の機会を作り出し、巨大な投資と消費を呼び込みます。そしてまた、中国経済の早い発展を保つ原動力になります。

中国経済は民主・文化などの方面からの成果は、全国各民族人民の苦勞と奮闘の賜物です。そしてまた数千万の海外華僑華人の強大な支援と支持が無くては成し遂げられませんでした。どの民族、どの地域も自分たちの夢を持っています。国内・海外華僑華人の共通の夢は、中華民族の偉大なる復興の実現です。すなわち中国を富强・民主・文明そして調和型の近代化の国になることです。

「中国夢」とは富强の夢です。かつての中国はその歴史の長期にわたって繁栄で強大な国家でした。しかし近代の100年は貧しさと脆弱が積もり積もった国でした。列強の侵略と略奪の対象に没落しました。新中国の成立は中国の本当の意味の自主と独立の実現でした。改革開放は世界が注目する中国の経済の発展を成し遂げました。中国人民は小康生活を手に入れ、国家の総体的実力も大きく増加しました。中国は依然として工業化・IT化・都市化・国際化を推し進めている最中の発展途上国です。これは本当の意味で、富强国家になるには、まだまだ道のりを走らなければならないことを意味しています。また同時に中国がさらに大きく発展できる大きな空間と有利な条件を持っていることを意味しています。中国共産党と政府は“200年”の目標を制定しました。中国人民は期待に胸を膨らまし、未来に対して大きな自信を持っています。

「中国夢」とは民主の夢です。“民主”、この言葉は舶来品です。ただし民主思想は中国に早くからあり、2500年前の孟子が「民は貴く、君は軽く」と言っています。辛亥革命で王朝が倒され、共和体制が打ち立てられました。これは近代中国民主の進化の中で大きな進歩です。中国共産党が指導する新民主主義革命は独裁統治を倒し、中華人民共和国を成立させました。初めて人民が主人公の国家体制と政治体制を作り上げました。政党政治を実行します。ただし政権交代のある政治は行いません。中国共産党は国家の指導勢力として人民に対するサービスを重要な目的として、党内に整った民主構造を持っています。中国の国家機構は立法・行政・司法に分かれています。しかし“三権分立”は採用しません。人民代表大会が国家最高権力で、その構成員は人民選挙によって選ばれます。実践が証明しているように、中国の政治体制が中国の国情に合致しています。長期の安定と秩序、そして経済の迅速な発展と社会の絶え

間ない進歩を保証しました。中国は民主法治国家の建設を大きく推し進めることで、人民が国家政治の中で主人公であることが絶え間なくそしてさらに具体的に実現していきます。

「中国夢」は文明の夢です。古くからの文明国として中国は輝かしい文明史を持っています。中国人は努力して豊かな経済を獲得すると同時に、精神的にも文化的にも努力して豊かさを追い求めてきました。伝統文化・文明の発揚を継承すると同時に、新時代の特徴と人々の文化的要求を結合させ、未来に向けて中国文化を発展させています。

「中国夢」はまた調和の夢です。私たちは公正正義を追い求め、互助・友愛を掲げ、良好な道徳で社会の色々な矛盾を解決することを重視し、国家の安定と幸せを享受できる繁栄した世の中を目指しています。中国は平和・発展の道を走り続けます。善隣外交政策を堅持し、国家間の相互尊重を主張し、平等に相対し、覇権主義や強権主義に反対します。現在までに、国連平和維持部隊に維持隊員を 2.2 万人派遣しています。自分自身が決して豊かで無いのにもかかわらず、発展途上国に約 3000 億元の対外援助を行っています。

三、在日華僑華人ご自身の建設と発展

長期にわたって日本華僑華人聯合総会は、多くの在日華僑華人をまとめ、お互いに助け合い、一致団結し心を祖国につなぎ、故郷の経済発展・祖国統一のために、中日両国の民間交流に大きな貢献をなしてきました。尊敬と感謝に値することです。

現在中日関係は新しい試練に向き合っています。より一層在日華僑華人社会を建設するために、いくつかの考えを皆さまにご参考いただければと思います。

(1) まずは自分自身の足で立ち、内部建設を強化することです。

中日関係が激しくぶつかり、厳しい試練を迎え、中国公用・ビジネス・文化交流での訪日が激減している状況のもと、華僑華人そして中国国内の関係者は多かれ少なかれ影響を受けることは避けられません。華僑華人の心情にも困惑をもたらしています。

日本華僑華人聯合総会は長い歴史を持ち、組織は密接につながっています。これは日本華僑界が誇りを持てる貴い宝です。また、日本華僑界の団結は愛国の旗印です。日本華僑華人聯合総会は政治から離れた文化的な芸術活動で会員間の交流を深め、会員のリラックス促進、ストレスの軽減をはかっていると思います。各地の総会も管理経験をお互いに共有して、協力関係を強化し、どのように新しい指導者層を育成するか、新しい血を吸収して、青少年の中国語教育、中華の優秀な文化伝承などの問題に知恵を出し、新規軸を打ち出し、繰り広げていただきたいと思います。

(2) 自身の能力を発揮して、日本の友人と広く付き合うことです。

在日華僑華人、特に聯合総会の老華僑の皆さまは日本で生まれ、日本で成長し、身近に多くの日本人の友人をお持ちのはずです。皆さまが力いっぱい努力して仕事に励み、広く友人をつくって身近な日本の友人に中華民族の“善”と“和”の理念を伝え、彼らが正確に中国を見られるように、中日関係を理性的に認識できるように導いてくださるよう希望します。例えば社会的に身分が高く、本当に中国人と友人になりたいと思っている日本人に、プラスの働きを発揮してもらえることも可能だと思います。

(3) 全ての在日華僑会との意思の疎通と連合することです。

長きにわたって聯合総会は新華僑及び新華僑団体との連絡・交流に力を注ぎ、指導的で有益な仕事してきました。そして援助を受けた日本各地の新華僑団体は非常に感激しています。外部環境が困難な状況の中で、聯合総会が引き続き新華僑及び新華僑団体との意思の疎通と連合を強め、新華僑が早く成長できるように導いていただきたいと思います。

(4) 中国にたびたび帰って見て下さることです。

先ほども中国の近代の各領域での成果をお話しました。華僑同胞の皆さまは機会があれば帰国して、祖国を見ていただきたいと思います。最近、国内各地では華僑担当部門が、ポイントを絞った意義のある訪問団を組織しています。今日、ご出席の皆さまにもぜひこれらの活動にご参加いただきたいと思います。そして忙しい仕事の合間に時間を作り、帰国して中国の変化を身近に感じていただきたいと。

長くなりませんが最後に、日本華僑華人聯合総会がますますの発展、そして本日の会員大会の円満な成功に心からお祈り申し上げます。ご出席の華僑界の先輩方、華僑同胞の友人の皆さんに、健康とご家族のお幸せを祈念いたしまして、私のあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

【来賓あいさつ】全日本華僑華人中国平和統一促進会 陳慶民会長

本日はお招きいただきありがとうございます。

皆さま方も記憶していると思いますが、2001年に東京において反独促統世界大会が開催されました。老華僑の団体の皆さまより積極的な支援をいただき、開催することができました。その流れを受けて、今から8年前に本会が設立いたしました。世界大会に参加されました老華僑の団体の会長・副会長、また改革開放政策が実施され、1980年代半ば以降に来日した新しい仲間たちと共に設立いたしました。本日在席している皆さまの中にもわれわれの副会長として活躍している方もおります。

本会は在日華僑華人によって自主的に設立されておりますが、同時に北京にある中国和平統一促進会に正式に登録されている組織でもあります。中国の平和統一を目指し、台湾独立に反対する本会の様な組織は全世界に百数十団体あり、本会と同様に中国和平統一促進会に登録されております。毎年、北京において世界規模の海外統促会会長会議が開催されています。われわれは自立した組織ではありますが、同時に中国を始めとする全世界の統促会と連携しながら平和統一に邁進して行きたいと思っております。

兩岸関係に目を移すと、経済を中心に兩岸関係は飛躍的に発展しており、すでに経済一体化の様相を呈しています。例えば台湾の対外輸出をのうち、香港を含む中国大陸向けが40%前後を占めております。このような状態は5・6年前から継続しています。即ち、台湾経済はもはや中国大陸経済と密接不可分な関係にあることを示しており、現在の国民党政権でも、将来民進党政権になったとしてもこの構造を変えることはできないと思っております。人の往来も頻繁となり、毎週616便が大陸と台湾間を飛行しています。また大陸と台湾との男女間の登録結婚件数は34万組を数えます。大陸から台湾に観光で訪れた人数は延べ197万人で前年比150%増です。また150万人の台湾の人が大陸で居住しております。

この様な兩岸交流の急激な進展にもかかわらず、残念ながらわれわれの希望である統一実現にはまだまだ多くの年月を必要とすると思っております。兩岸の政治関係について述べるならば、現状は未だに大陸と台湾は戦争状態にあります。1946年6月に国民党と共産党との内戦が勃発しましたが、その後現在に至るまで停戦協定など何も無く、理論上では未だ内戦は終了していない状態と言えます。このようにいびつな状態を1日でも早く解消しなければなりません。大陸は台湾海峡に向けたミサイルを配備しており、他方台湾も年1度軍事練習を行っており、それらの演習は大陸からの攻撃に備えるためと言われております。1950年に朝鮮戦争が勃発し、1953年に休戦協定が結ばれました。即ち、朝鮮半島には休戦協定があるが、われわれの兩岸の間には未だ休戦協定も無い現実を頭の片隅に置いて下さい。

他方、兩岸取り巻く国際的環境ですが、昨今習近平国家主席がアメリカを訪問し、オバマ大統領と2日間、8時間に及ぶ会談を行い、中米は先ずお互いにプラスになることを積極的に行い、互いの意見の相違は相違として残しながら時間をかけて解決して行こうとの基本的なスタンスが確認されました。

兩岸関係は中米問題と密接につながっており、ある意味で兩岸問題は中米問題であると言っても過言ではありません。1979年1月1日に葉劍英氏が台湾同胞に告げる談話を発表し、その中でそれまでの台

湾解放に替えて初めて祖国統一を唱えました。その 1979 年 1 月 1 日は同時に中米国交正常化の日でもあり、その日以降、対台湾政策におけるスローガンは祖国統一となり、台湾解放は一切使われなくなりました。

現在のオバマ政権の基本政策は輸出の倍増であり、企業を活性化させ、失業率を減少させ、法人税及び個人所得税の増収をはかり、財政問題を解決させる事にあります。その輸出の倍増を実現させられる可能性がある地域は東アジアであり中国であるとオバマ氏は認識しております。したがって中国の成長を取り込み、東アジアの成長を取り組むことがオバマ氏の基本的政策であり、そのためには平和で安定した状態が必要不可欠となります。即ち、良好な兩岸関係はアメリカにとっても希望するところであると思います。本日は時間の関係で釣魚島問題に触れませんが、中日関係に就いて一言述べますと、先日インドを訪問した麻生太郎副総理は「日本は中国と 1500 年以上付き合ってきたが、1 度も良い事は無かった。」と発言しました。それは中国との良好な二国間関係を強めたいインドの対中国政策に水を差したいとの発言だと思いますが、中国は世界の国々とウィンウィンの方針で協力関係を拡大したいと考えていることに対して、少々ズレがあると感じられます。

最後に、われわれ統一促進会は微力ではありますが、この日本の地で中日友好及び台湾問題解決のために、すなわち台湾独立に反対し、平和統一を促進する仕事に今後ますます邁進していきたいと思いません。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

【2 日目】

【新会長あいさつ】日本華僑華人聯合總會 任政光会長

昨日陳学全氏が報告された第 15 届日本華僑華人聯合總會の目標と任務を話しました。われわれはこの主旨を引き継ぎ、愛国・団結・愛郷の精神の元に広範な華僑華人の各地域の華僑總會を結集していきたいと思いません。その中で最よく近聞くことは後継者問題・会員の減少です。しかし後継者も会員もたくさんいます。特にわれわれあの中で数年前から新華僑の問題を取り上げている。この面で成功しているのは岡山・三重・新潟の僑団がすばらしい成果を上げている。われわれも大胆に恐れずに新華僑との連結を進めていきたいと思いません。また聯合總會は各地域の華僑總會の集まり、この集まりを強化し発展させることが私たちの願いであります。目的を達成するためにも団結が無くてはなりません。われわれ祖国の「中国夢」は海外華僑の夢と同じであると思いません。中国有人船打ち上げというニュースがありました。これは世界のとっても中国が大きな成功を収めた例であります。20 年には宇宙ステーションが独自で作れる科学技術の発展を成し遂げました。今後皆さんの意見を聞きながら聯合總會を強化していくのか考えていきたいと思いません。

符易亨前会長陳学全前事務局長に拍手！

【事務局人事について】

事務局長 : 温耀権 (横浜華僑總會)

TEL(PHS) : 070-6979-6693 E-mail : wen-yq@yokohama-chinese.gr.jp

事務局次長 : 劉中耀 (大阪華僑總會・後日任会長より指名され、常務委員会にて承認された。)

TEL(PHS) : 070-6984-9321 E-mail : liuzhongyao@rainbow.plala.or.jp

以上